

2. いじめを生まない環境づくり(未然防止用資料)

子どもたちに「いじめはやめましょう」と指導することは大切ですが、日々の学校生活の中で一人ひとりの子どもたちが安心して過ごすことができる「良い雰囲気」を作ることが何よりの予防です。日ごろの指導や子どもの様子を確認しながら、いじめの未然防止に努めましょう。

◇教職員チェックシート(P.10)

◇小学生用チェックシート(P.11)

◇中学・高校生用チェックシート(P.12)



日ごろの指導／生活をふり返ろう

★目的：教職員や子どもが日ごろの指導や生活をふり返り、自分の心のあり方に気づき、一人ひとりの子どもを意識して指導したり、前向きに学校生活を送ったりできるようにするためのチェックシートです。

★対象：教職員・児童生徒

★方法：あてはまる□にチェック(☑)をつけます。

★活用：〈教職員用〉

自分の日々の指導をふり返り、チェックのつかない項目について取り組めるようにしましょう。1回だけでなく、学期の節目などに活用しましょう。

〈児童生徒用〉

自分の心のあり方に気づけるようにします。定期的の実施し、変化や成長に気づけるようにすると良いでしょう。学級で集計し、子どもたちの傾向を把握して以後の学級経営に役立てたり、気になる子どものチェック内容を確認したりしながら見守りましょう。

◇保護者用 配付資料例(P.13)

いじめの未然防止に向けて

いじめが多様化している現在、保護者との連携は欠かせないことです。家庭においても日ごろから人権意識をもって子どもに接し、未然防止に努めていただくことが大切です。

また、心配なことがあったらまず、学校に相談するよう働きかけ、担任と連携しながら様子をみたり、親子で話し合ったりすることを勧めましょう。この資料は、各家庭へ配付したり、保護者懇談会や学級通信などに使用したりすることを念頭に作成したものです。

日ごろの指導をふり返ろう

学級づくりの基盤は児童生徒理解です (子どもの心を受け止める感性を磨く)

人は理解してくれる人には安心して心を開きます。子どもを理解するには、性格的な特徴をはじめ、学力、興味、要求、悩み、交友関係、家庭環境、生育歴など、さまざまな面から子どもをみていく必要があります。

- 子どもの表情や言動を観察しながら、温かい言葉がけを行うようにしていますか。
- 一方的に叱責せず、まず子どもから理由などをよく聞き、その背景を考えて指導にあたっていますか。
- 休み時間や清掃時間なども、できるだけ子どもと一緒にいるように努力していますか。
- 個人・班ノートの活用や、友だち関係をさりげなく聞くなど、子どもの情報収集に努めていますか。
- 他の先生(養護・教科担任・専科・部活顧問など)からも子どもの情報を得るようにしていますか。
- 学級通信の発行や家庭訪問、定期的な保護者会の開催など家庭からの情報収集に努めていますか。

魅力ある授業づくりが魅力ある学級づくりにつながります (一人ひとりの子どもの存在感を保障する)

わかる喜びや学ぶ意義を実感できる授業は、子どもにとって学校生活への意欲と存在感を高め、情緒の安定をもたらします。

- 呼び捨てや子どもによって言動を変えることをせず、授業規律の維持に心がけていますか。
- 子どもの発言に対して、積極的な受容、うなずきを大切にしていますか。
- 教師と子ども、子ども同士の関わりが深まるように発問や座席の配置を工夫していますか。
- 一人ひとりが活躍できる場や活動を設定していますか。

日々の学校生活の中で積み重ねが大切です (心にゆとりをもち、子ども一人ひとりに気を配る)

子どもたちが安心していられる「雰囲気」の良い学級は一朝一夕にはできません。毎日の取組を積み重ねる中で子どもたちと一緒に作りあげるものです。

- 教師の心ない言動がいじめを助長する可能性があることを自覚し、自分自身の言動をふり返っていますか。
- どの子どもに対しても機会をとらえて褒めたり、認めたり、励ましたりしていますか。
- 朝の会(朝学活)では子どもの表情を見ながら出席確認をしていますか。
- 帰りの会(帰り学活)では子ども一人ひとりの様子を確認していますか。
- どの子どもにもさりげない言葉がけを続け、一人ひとりの子どもと一日1回以上言葉を交わすように心がけていますか。
- 欠席の時は、必ず保護者と連絡を取り合っていますか。
- 「かわさき共生*共育プログラム」などを利用し、子どもが相互理解する場を積極的に作っていますか。
- 「して良いこと」と「悪いこと」の明確な基準を、教師から子どもに伝えていきますか。
- 学級での約束事を子どもたちに考えさせるなど、自主的・自発的な態度を養っていますか。
- いじめ問題の知識、問題行動に関する指導法など、常に指導技術の向上に心がけていますか。

ひ せい かつ かえ 日ごろの生活をふり返ろう

年 月 日

な まえ
名 前

じぶん せいかつ
自分のきもちや生活をふりかえってみましょう。

あてはまる□に、チェック(☑)をします。おもったとおりにこたえてね。

1. 学校はたのしい。
2. なかのよい友だちがいる。
3. 友だちにいやがる言葉を言わないようにしている。
4. 友だちにはやさしくしている。
5. 友だちが困っているときは、助けている。
6. 友だちがいじめられていたら、やめるように注意することができる。
7. いやなことは、いやだとはっきり言うことができる。
8. いじめはぜったいにしない。
9. 心配なことがあるときは、先生や家族に相談できる。
10. クラス(学年・学校)のために仕事や係などをがんばっている。



日ごろの生活をふり返ろう

年 月 日

氏名

自分の行動や気持ちをふり返って、あてはまる□にチェック(☑)をしてみましょう。

- 1. 学校は楽しい。
- 2. 信頼できる友だちがいる。
- 3. 友だちにいやがる言葉を言わないようにしている。
- 4. 相手の気持ちになって考えるようにしている。
- 5. 友だちが困っている時は、力になっている。
- 6. 友だちがからかわれていたり、いじめられていたりしたら、やめるように注意することができる。
- 7. 自分の思いを言葉にして相手に伝えることができる。
- 8. いじめは絶対にしない。(ネット上への書き込み・からかいなども含む)
- 9. 心配事を相談できる先生や家族がいる。
- 10. 学級や学年、学校がよくなるために委員会や係の仕事などに努めている。



年 月 日

保護者の皆様

川崎市立 学校
校 長
(PTA会長)

いじめの未然防止に向けたご協力をお願い

日ごろから、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、学校におけるいじめが社会問題化しておりますが、近年では携帯電話やインターネット等を使って行われることもあり、いじめの実態が見えづらくなっています。

子どもたちが毎日安心して楽しく過ごせるようにすることは、私たち大人の共通の願いです。学校では「いじめは絶対に許さない」との姿勢のもと、早期発見、早期対応はもとより、子どもたちの毎日の様子に気を配り、いじめの未然防止に努めておりますが、各ご家庭におかれましてもお子様の様子に気がかりな点がありましたら、担任まで早めにご相談ください。

このようなことにご配慮ください

〈日ごろの子どもとの関わりを見直しましょう〉

- 誰もが皆、かけがえのない存在であることを、機会をとらえて伝えましょう。
- してはいけないこと、してよいこと、しなければならないことなどの規範意識を身につけさせるようにしましょう。
- 子どもの話に十分耳を傾け、一方的な否定や叱責をしないようにしましょう。
- 子どもの良いところを認め、子どもに伝えましょう。

〈子どもの変化に敏感になりましょう〉

いつもと違う言動や表情、友だち関係の変化がみられたら、注意深く観察したり、じっくり話を聞いたりしてみてください。

例えば

- ・登校をしづる。
- ・表情が暗くなり、学校のことを話さなくなる。
- ・物がなくなったり、こわれたり、落書きがあったりする。
- ・仲良しの友だちと関わらなくなる。
- ・衣服が汚れたり、あざを作ったりしている。

など

★このようなサインがみられてもいじめが原因とは限りません。親子でじっくり話をしたり、様子を見守ったりするとともに、ご心配なことがありましたら早めにご相談ください。



3. 子どもの心を感じるアンテナ(早期発見用資料)

いじめの早期発見のためには、教職員がいじめについての理解を深め、注意深く子どもたちを観察し、その言動からいつもと違う様子やサインを見逃さないことが大切です。教育相談活動とともに、いろいろなチェックシートやアンケートを活用しながら、早期発見に努めましょう。

◇教職員用・認識チェックシート(P.15)・解説(P.16)

「いじめ」とは・・・教師の認識度チェック

- ★目的：いじめは見えにくく、複雑になってきています。いじめとはどんなものか、また自分の取組や迷い等を考え直すためのチェックシートです。
- ★対象：教職員
- ★方法：●一つひとつの項目を読み、日ごろの児童生徒指導をふりかえって、自分の認識や姿勢と一致するものに○をつけてください。
●チェック後に16ページの解説を読みながら、いじめについて認識を深めてください。
- ★活用：職員会議や学年会、児童指導部会や生徒指導部会、職員研修等で一斉に実施することで、教職員全員で問題意識の向上を図ることができるとともに、子どもへの適切な指導法の検討に役立てることができます。



「いじめ」とは・・・教師の認識度チェック

自分の認識や姿勢と一致する項目の右の空欄に○をつけてください。

項 目		
1	子どもと接するときは、子どもの表情や会話の様子、周囲の友だちの反応などに気をつけている。	
2	いじめられる子どもにも原因がある。	
3	いじめたり、いじめられたりする子どもはだいたい決まっている。	
4	教職員の言動は、子どもたちの人間関係にも影響を与える。	
5	子どもたちの情緒の安定のために、日ごろからゆったりした気持ちで接している。	
6	いじめ対策には、個々の教職員の取組より、学校全体の体制や組織づくりが重要である。	
7	日ごろの授業を大切にすることが、いじめの防止にも役立つ。	
8	いじめたり、いじめられたりする体験は、子どもの成長に欠かせない。	
9	いじめが起きたときにしっかりと指導することによって、いじめの再発を防止できる。	
10	いじめられた子どもからの悩みや相談は、信頼されている教職員や保護者にこそ入ってくる。	
11	「いじられキャラ」の子どもがクラスにいと場が盛り上がってよい。	
12	子ども同士のトラブルにあまり過敏に反応するのは、子どもたちの成長のために良くない。	
13	いじている子どもは、その背景に家庭の問題がある。	
14	保護者もいじめに対する正しい認識をもつ必要がある。	
15	子どもの話を共感的に受けとめ、一緒に考えるように心がけている。	



「いじめ」とは・・・教師の認識度チェック 〈解説〉

1. 子どもたちの表情や言葉、行動には日ごろから気をつけてみていく必要があります。変化を見取り、サインを見逃さないためには、子どもたちとのふれ合いや信頼関係づくりが大切です。
2. いじめは、どんな理由があっても決してしてはいけないことです。いじめられる側に問題を見出すことは責任の転嫁に他なりません。
3. いじめはどの子どもにも起こりうることです。いじめる子どもといじめられる子どもの立場が替わったり、いじめの対象が次々に替わったりすることもあります。
4. 授業や部活動（クラブ活動）における教師の何気ない言葉かけが、いじめを誘発したり増長したりすることがあります。教師の言動が子どもの人間形成に大きくかかわってくることを忘れてはなりません。日頃から高い人権意識をもって子どもに接しましょう。
5. 教師がピリピリしていると子どもに過度に緊張感を与えるばかりでなく、いじめのサインを見逃してしまう恐れがあります。子どもにゆとりを持って接することは大切なことです。
6. いじめはすべての教職員で情報を共有し、どのように子どもたちに接していけばよいのかを学校全体として考えていく必要があります。組織がどんなに立派でも個々の教職員の実践が伴わなければ意味をもちません。
7. 楽しい授業、わかる授業は一人ひとりの子どもの知的欲求を満足させるだけでなく、子ども同士の関わりや他の人との関わり、体験を通しての新しい発見や視野の広がりをもたらし、いじめの防止につながります。毎日の積み重ねが大切です。
8. いじめは深刻な人権侵害であり、精神的な苦痛を感じながら成長させるということはあってはならないことです。
9. いじめは状況によって誰もがいじめられる側、いじめる側になります。どんなにしっかり指導しても立場が変わって再発することがあります。指導後も注意深く経過観察する必要があります。
10. 「親に心配をかけたくない」「話したあとの仕返しがこわい」などと、いじめられた子どもはその事実を身近な人に隠すことがあります。変化に気づき、問いかけたときに「いじめられていません」と否定したからと言って鵜呑みにしないことが大切です。
11. 「いじる」と「からかう」、「いじめる」の境界は不鮮明です。しかし、本人が不快に感じていたら、速やかにその行動をやめさせる指導が必要です。
12. いじめ問題に関しては、敏感に感じ取ること、絶対に許さない毅然とした態度が必要です。「たいしたことはない、これくらいのことで」といった対応が、些細なトラブルをいじめにエスカレートさせてしまうことがあります。
13. いじめた子どもたちにはさまざまな背景があります。「家庭に問題があるから」という一方的な決めつけは解決にはつながりません。
14. 保護者が子どものSOSに気づき、家庭と学校が協力して解決したケースもあります。保護者が冷静に判断するためにも学校では、いじめ問題を含めた子どもに関する情報発信を重ね、常に啓発を図ることが重要です。
15. 教育相談的なかわりには子どもの心を理解するうえで不可欠であり、いじめの防止にも有効です。

○となる項目・・・・・・・・・**1・4・5・7・14・15**

いじめのサイン…教師の気づき支援シート

- ★目的：**いじめの早期発見とは、いじめの兆候にいち早く気づくことです。いじめられている子どもに見られる特徴的な行動パターンに照らし合わせて、教職員の気づきを支援することに主眼を置いたチェックシートです。
- ★対象：**教職員
- ★方法：**教職員がシートの各項目を見ながら、一人ひとりの子どもについて該当するか否かを繰り返します。
- ★活用：**
- 各項目に該当する子どもがいたら、いじめられている可能性を念頭に置き、他の項目の視点からも注意深く見守ります。また、他の教職員や保護者との情報交換を行い複数の視点から見守ります。
 - 多様な視点から見ていじめの疑いがある場合（あるいは、いじめではないと確信できない場合）は、管理職に相談のうえ校内の対策会議にはかり、アンケート調査など、次のステップに移ります。
 - 記載された項目は代表的な行動パターンであって、すべてを網羅しているわけではありません。あくまで教師の気づきを支援する補助シートですので、手元の記録などを参考に、他の変化を見逃さないように留意する必要があります。



いじめのサイン・・・教師の気づき支援シート

【登校に関連して】

〈チェック項目〉

- 1 一人で登校する。
- 2 元気がなく、浮かない表情を見せる。
- 3 用事もない様子なのに、教職員のそばに来る。
- 4 欠席、遅刻、早退が増える。

【授業に関連して】

- 1 頭痛、腹痛など体調不良を訴え、保健室に頻繁に行く。
- 2 教職員よりも遅れて教室に入る。
- 3 発言すると嘲笑されたり、はやし立てられたりする。
- 4 教科書やノートなどへの落書きがある。
- 5 持ち物がよくなかったりする。
- 6 不自然に机の距離が離れている。
- 7 グループ分けでなかなか所属が決まらない。
- 8 持ち物に触れることをいやがる。

【休憩・昼食・清掃時間に関連して】

- 1 一人でポツンとしている。
- 2 友だちとふざけ合っているが、表情が暗い。または、作り笑いをしている。
- 3 遊びの中で、嘲笑やからかいまたは命令などされたりする。
- 4 不快なあだ名で呼ばれている。
- 5 一人で清掃や片付けをしていることが多い。
- 6 机が運ばれず、放置されている。
- 7 特に用事がないのに職員室や保健室に頻繁に通う。
- 8 配膳を嫌がられる。
- 9 遊びで使った道具等の後片付けをいつもやらされている。

【下校・放課後に関連して】

- 1 靴や傘などが隠される。持ち物がなくなる。
- 2 無理やり誘われることがある。
- 3 荷物を持たされている。
- 4 みんなが帰るまで下校しようとしなない。
- 5 教職員の目の届く範囲から離れようとしなない。
- 6 昇降口や校門付近で不安そうにおどおどしている。
- 7 衣服に汚れや破れがみられる。

いじめのサイン・・・教師の気づき支援シート

【登校に関連して】

〈チェック項目〉

- 1 一緒に登校する友だちがかわる又はいなくなる。
- 2 元気がなく、浮かない表情を見せる。
- 3 用事もない様子なのに、教職員のそばに来る。
- 4 欠席、遅刻、早退が増える。

【授業に関連して】

- 1 表情に暗さがあり、どこことなく元気がない。
- 2 発言すると嘲笑されたり、はやし立てられたりする。
- 3 いつもと違う座席に座っている。
- 4 周りから発言を強要されたり、突然個人名が出されたりする。
- 5 ふざけ半分に委員や係に推薦されたことがある。
- 6 不自然に机の距離が離れている。
- 7 掲示作品などにいたずらがある。
- 8 学習意欲が低くなり、成績が低迷してくる。

【休憩・昼食・清掃時間に関連して】

- 1 一人でポツンとしている。
- 2 友だちとふざけ合っているが、表情が暗い。または、作り笑いをしている。
- 3 遊びの中で、嘲笑やからかいまたは命令などされたりする。
- 4 不快なあだ名で呼ばれている。
- 5 一人で清掃や片付けをしていることが多い。
- 6 机が運ばれず、放置されている。
- 7 特に用事がないのに職員室や保健室に頻繁に通う。
- 8 服などに靴の跡がよく見られる。
- 9 無理をしてはしゃいでいる。

【下校・放課後に関連して】

- 1 靴や傘などが隠される。持ち物がなくなる。
- 2 無理やり誘われることがある。
- 3 荷物を持たされている。
- 4 部活動を休みがちになる
- 5 部活動の休憩時間など一人でいることが多い。
- 6 急いで下校することが多くなる。
- 7 衣服に汚れや破れがみられる。

◇小学校低学年用・調査アンケート(P.21)

◇小学校高学年用・調査アンケート(P.22)

◇中学・高校生用・調査アンケート(P.23)

せんせい あのね / 学校生活についてのアンケート

- ★目的：**いじめは表面化しにくく、観察だけではなかなか見えにくい面があります。いじめが疑われる事態になったときの調査だけでなく、定期的に行うことでいじめに関する子どもへの意識づけを継続的に図ることができます。そのため、いじめの早期発見だけでなく、未然防止にも役立つよう構成されたアンケートです。
- ★対象：**児童生徒
- ★方法：**
- クラスごとに、学級活動などの時間を利用して実施します。
 - 実際にいじめがある場合は、いじめている側もいじめられている側も記入に抵抗があります。したがって、アンケートは担任が回収したり、二つ折りにして見えないようにしたり、場合によって無記名にしたりし、実施方法や回収の仕方には十分な配慮をすることが必要です。
 - 一方、アンケートへの記入している子どもの様子には多くの示唆が含まれています。記入中の子どもの挙動に注目する必要があります。
 - 実施には保護者や教職員の共通理解、周知徹底を図る必要があります。
 - 個人情報の取り扱いや情報公開についても配慮が必要です。
- ★活用：**
- 年間計画に位置づけた定期的な実施……早期発見はもとより、子どもへの意識づけにつながり、未然防止の効果も期待できます。
 - いじめの兆候がみられたときに、特定の学年やクラスで緊急に行う調査に利用できます。
 - 結果を分析することで、課題を明確化することができます。調査後は児童指導部会や生徒指導部会などで、具体的な対応策を検討します。
 - こうしたアンケート実施の機会を利用して、子どもだけでなく教職員のいじめに対する高い問題意識を醸成することができます。

【せんせい あのね】

_____がつ_____にち

()ねん ()くみ ()ばん なまえ_____

これは みなさんが学校でたのしくすごすことができるようにするためのものです。
 こんげつ 学校でおきたことについて おもいだしてこたえてください。

● したの1から4までの しつもんを よんで あてはまるもの1つに○をつけてください。

	し つ も ん	たくさん ある	ある	すこし ある	ない
1	あなたは、ともだちに「ぜったいにやめてほしい」とおもうことをいわれたことがありますか。				
2	あなたのクラスには、なかまはずれにされている人はいませんか。				
3	あなたのクラスには、たたかれたり、けられたりしている人はいませんか。				
4	あなたのクラスには、ものをかくされたり、こわされたりしている人はいませんか。				

● もし、ともだちが、うえの1から4のようなことをされていたのを見たときあなたは どのようなことができそうですか。

①～⑥のなかの あてはまる()のなかに ○をつけてください。

- ① やっている人に やめるようにいって たすけてあげる ()
- ② せんせいや ほかに人に おしえる ()
- ③ されている人に だいじょうぶ と 声をかける ()
- ④ なにかしたいけれど なにもできそうにない ()
- ⑤ なにもしない ()
- ⑥ そのほか ()

がっこうせいかつ 【学校生活についてのアンケート】

ねん がつ にち
年 月 日

()年 ()組 ()番 氏名

このアンケートは、みなさんが楽しく学校生活を送ることができるようにするためのものです。 月 から今日までの学校でのことについて、思い出して答えてください。

● 下の1から5までの質問を読んで、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	しつもん	たくさんある	ある	すこしある	ない
1	あなたは、友だちに「ぜったいやめてほしい」と思うような、いやなことを言われり、されたりしたことがある。				
2	クラスの中で、仲間はずれや無視をされている人がいる。				
3	クラスの中で、たたかれたり、けられたりしている人がいる。				
4	クラスの中で、持ち物がわざとこわされたり、かくされたり、落書きされている人がいる。				
5	クラスの中で、手紙やネットのメールなどで、いやなことを書かれている人がいる。				

● あなたの周りに、上の1から5の質問のようなことをされている人はいますか。知っている人は、くわしく教えてください。(いつごろ、だれが、どのようなこと、など)

.....

● 上の1から5の質問のようなことをされている人を見たとき、あなたはどんなことができますか。①～⑥の中からあてはまるものに○をつけてください。

- ① 止めに入る・やめるように注意する ()
- ② だれかに知らせる・相談する ()
- ③ されている人に声をかける ()
- ④ 何かしたいが、何もできそうにない ()
- ⑤ 何もしない ()
- ⑥ その他 ()

.....

● 気になっていることや困っていることがあれば、下の欄に自由に書いてください。

.....

【学校生活についてのアンケート】

ねん がつ にち
年 月 日

() ねん () ぐみ () ばん しめい
() 年 () 組 () 番 氏名

私たちの学校は、いじめのない誰もが安心して楽しく学校生活を送ることができることを、めざしています。このアンケートは、学校での過ごしやすさと意識を知るためのものです。これから定期的に実施しますので、協力してください。なお、みなさんの回答は、後で誰かに知られることは一切ありませんし、発表されることもありませんので、安心して教えてください。

このアンケートは 月 から今日までのことについて、思い出して教えてください。

● 下の1から5までの質問を読んで、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	質 問	たいへん 多い	おほ 多い	すく 少ない	ない
1	あなたは、友だちにされたことで、「絶対にやめてほしい」と思ったことがある。				
2	クラスの中で、仲間はずれや無視がおこなわれている。				
3	クラスの中で、たたかれたり、けられたりなどの暴力を受けている人がいる。				
4	クラスの中で、持ち物がわざとこわされたり、かくされたり、落書きされたりといったことがおきている。				
5	クラスの中で、ネットやプロフ、メールなどで、いやなことを書かれている人がいる。				

● あなたの周りに、上の1から5の質問のようなことをされている人はいますか。そのことについて詳しく教えてください。(いつ頃・誰が、どのようなこと…など)

.....

.....

.....

.....

.....

● 上の1から5の質問のようなことをされている人を見たとき、あなたはどんなことができそうですか。①～⑥の中からあてはまるものに○をつけてください。

- ① 止めに入る・やめるように注意する ()
- ② 誰かに知らせる・相談する ()
- ③ されている人に声をかける ()
- ④ 何かしたいが、何もできそうにない ()
- ⑤ 何もしない ()
- ⑥ その他 ()

.....

.....

.....

.....

.....

● 気になっていることや困っていることがあれば、下の欄に自由に書いてください。

.....

.....

.....

.....

.....

◇小学校低学年用・効果測定アンケート(P.25)

◇小学校高学年用・効果測定アンケート(P.26)

◇中学・高校生用・効果測定アンケート(P.27)

◇効果測定集計表(P.28)・プロット(P.29)・解説(P.30)

なかまづくりアンケート

～23年度版効果測定の活用～

- ★**目的**：教職員や子どもの自尊感情を低下させることなく、いじめの被害、集団生活に不適應の子どもを発見(スクリーニング)することを目的にしたアンケートで、教職員に心理学等の専門知識がなくても、個人と学級集団全体を視覚的・客観的に把握できるよう工夫し、教職員間の共通理解と情報の共有が図れるようにしました。
- ★**対象**：児童生徒
- ★**方法**：(1)子どもには担任が質問紙を配付します。学年や個人の理解に応じて、担任が質問文を読み上げる等、補足してください。
(2)子どもには、「思っていることをそのまま書くこと」「話し合ったりせず一人で行うこと」「成績等、人物評価には関係ないこと」を伝えます。
※アンケートは28問で、所要時間は15分～20分、教師がスクリーン化するための処理時間は20分程度です。
※詳しくは、実施にあたっての注意事項などを記した『かわさき共生*共育プログラムの効果測定の手引き』(平成24年2月配付予定、A3両面印刷見開きリーフレット)を参考にしてください。
- ★**活用**：(1)クラス集団の傾向から子どもが教職員の指導等をどう受け止めているのかがわかります。授業の進め方や学級活動を展開していく時のポイント、課外での対応のしかたに生かすことができます。
(2)個々の子どもの理解が進みます。クラスとの適応性や集団との関係等の理解に生かすことができます。
※心配な傾向がある子どもには、家庭等との連携、個別指導、支援計画づくりなどをする必要があります。
※教職員集団の見取り(行動観察法)や教育相談、カウンセリング等(面接法)とあわせて活用することで、より客観的な児童・生徒理解の充実が図れます。

じっしび _____ がつ _____ にち()

ねん _____ くん _____ ばん：なまえ _____ おとこ ・ おんな

なかまづくりアンケート

★つぎにあげたことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。
あてはまるとおもうところに○をつけてください。

4 できる (とても上手)	3 すだいだいできる (まあまあ)	2 あまりできない (まあまあ)	1 できない (まったく)
---------------------	-------------------------	------------------------	---------------------

1	はなしや あそびのなかまに きがるに 入れます。(じぶんからかたんに)	4	3	2	1
2	じぶんのきもちや、かんがえを はなす ことが できます。	4	3	2	1
3	たいへんなとき、ともだちに「手つだって」と たのめます。	4	3	2	1
4	なかのよい 友だちは すぐに できるほうです。	4	3	2	1
5	友だちとの はなしが つづくほうです。	4	3	2	1
6	友だちのたのみでも、いやなときは「いやです」と ことわれます。	4	3	2	1
7	友だちとケンカをしても、すぐに なかなおりが できます。	4	3	2	1
8	クラスのだれにでも やさしくしようと おもいます。	4	3	2	1
9	友だちから「手つだって」といわれたら 手つだってあげます。	4	3	2	1
10	友だちが ないとき、やさしい ことばを かけます。	4	3	2	1
11	友だちが じぶんに めいわくをかけて あやまってきたら、その友だちをゆるそうと おもいます。	4	3	2	1
12	人にめいわくをかけたとき すぐにあやまることができます。(そのばで)	4	3	2	1
13	友だちを きずつけないように いつも気を付けています。	4	3	2	1
14	じぶんがはなすだけでなく 友だちのはなしも よくきくことができます。	4	3	2	1
15	だれとでも、えがおで(にこにこ)あいさつが できます。	4	3	2	1
16	友だちがこまるようなことを、わざと したりいたり しません。	4	3	2	1
17	友だちにいうことをきかせようと おおきな声をだして いいません。	4	3	2	1
18	じぶんがうまくできないとき、友だちに いじわるしたりじゃまをしたり することはありません。	4	3	2	1
19	かっとなって、ものを なげたりこわしたり することはありません。	4	3	2	1

20	友だちは、じぶんのはなしを よくきいてくれますか。	4	3	2	1
21	友だちは、こまったときに じぶんをたすけてくれるとおもいますか。	4	3	2	1
22	クラスのかつどうを とおして 友だちがふえましたか。(かかり、とうばん、じゅぎょう)	4	3	2	1
23	クラスに おねがいができる なかよしの友だちが いますか。	4	3	2	1
24	クラスの友だちと きょうりよくしています。	4	3	2	1
25	クラスの友だちとした やくそくは かならず まもります。	4	3	2	1
26	クラスできめた やくそくをまもるためには がまんすることができます。	4	3	2	1
27	クラスの友だちに めいわくをかけることは しません。	4	3	2	1
28	クラスのために がんばろうときめたら がんばれます。	4	3	2	1

ねん 年 ぐみ 組 ばん 番 じっしび 実施日 がつ 月 にち 日 ()
 おとこ 男 ・ おんな 女 氏名

なかまづくりアンケート

★次にあげたことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。
 あてはまると思う番号に○をつけてください。

	4 (とても思う)	3 (すこし思う)	2 (あまり思う)	1 (まったく思わない)
1	4	3	2	1
2	4	3	2	1
3	4	3	2	1
4	4	3	2	1
5	4	3	2	1
6	4	3	2	1
7	4	3	2	1
8	4	3	2	1
9	4	3	2	1
10	4	3	2	1
11	4	3	2	1
12	4	3	2	1
13	4	3	2	1
14	4	3	2	1
15	4	3	2	1
16	4	3	2	1
17	4	3	2	1
18	4	3	2	1
19	4	3	2	1
20	4	3	2	1
21	4	3	2	1
22	4	3	2	1
23	4	3	2	1
24	4	3	2	1
25	4	3	2	1
26	4	3	2	1
27	4	3	2	1
28	4	3	2	1

実施日 年 月 日 ()
 組 番 氏 名 男 女

なかまづくりアンケート

★次にあげたことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。
 あてはまると思う番号に○をつけてください。

		4 (できる とても思う)	3 (だいたい 思う)	2 (あまり 思う)	1 (まったく 思わない)
1	友だちが話をしているところに、気軽に仲間に入れてもらうことができます。	4	3	2	1
2	自分の気持ちや考えなどを素直に話すことができます。	4	3	2	1
3	忙しいとき、友だちに「手伝って」と言うことができます。	4	3	2	1
4	自分が友だちになりたいと思う人とうまく友だちになれます。	4	3	2	1
5	友だちと話をしている、会話が続く方です。	4	3	2	1
6	友だちの頼みでも、いやなときは「いやです」と言えます。	4	3	2	1
7	まわりの人たちとの間で問題が起きても、話し合い、うまくやっています。	4	3	2	1
8	クラスの友だちに対しては、だれにでもいつも親切にしようと思えます。	4	3	2	1
9	友だちから「手伝って」と言われたら手伝ってあげます。	4	3	2	1
10	友だちが、めざしている目標を応援しようと思えます。	4	3	2	1
11	友だちが 自分にめいわくをかけてあやまってきたら、その友だちを許そうと思えます。	4	3	2	1
12	何か失敗したときに、すぐにあやまることができます。	4	3	2	1
13	友だちを傷つけないように、気をつかいます。	4	3	2	1
14	自分が話すだけでなく、友だちの話もじっくり聞くことができます。	4	3	2	1
15	だれとでも、さわやかにあいさつやお礼ができます。	4	3	2	1
16	不愉快になってきても、まわりのことを考え、すぐに顔や態度に表したりしません。	4	3	2	1
17	意見の違いやトラブルが起きても、すぐにどなることはしません。	4	3	2	1
18	友だちと意見が合わないときでも、言い争いはせず、冷静に話し合います。	4	3	2	1
19	いらいらしても、人にあつたり、物を壊したりすることはありません。	4	3	2	1
20	友だちは、私の考えや意見をよく聞いてくれます。	4	3	2	1
21	友だちは、私が困ったときに相談にのってくれます。	4	3	2	1
22	悲しい気持ちになったとき、素直にクラスの人に気持ちを話すことができます。	4	3	2	1
23	クラスの中に、信頼できる友だちがいます。	4	3	2	1
24	クラスの中に、自分が任されている役割があります。	4	3	2	1
25	クラスの人と交した約束は守ります。	4	3	2	1
26	クラスのルールを守るためには、がまんすることができます。	4	3	2	1
27	クラスの人がルールを破ったら注意をします。	4	3	2	1
28	クラス全員がまとまり目標に向かって行動することが好きです。	4	3	2	1

〈集計表〉

番号	個人名	個人別集計点							
		①言語・解決	②気遣いサポート	③感情統制	スキル合計	④信頼他者	⑤団結・規範	信頼感合計	カテゴリー
		1-7	8-15	16-19	1-19	20-23	24-28	20-28	A-D
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
41									
42									
43									

●スキル合計は
①言語的・解決スキル
②気遣いサポート
③感情統制の合計です。
①②③の小計は省略できます。

●信頼感合計は
④信頼他者
⑤団結・規範の合計です。
④⑤の小計は省略できます。

この図表の使い方

①スキルの合計を求めます。

1～19の合計

②信頼感の合計を求めます。

20～28の合計

③スキルの合計を横軸に信頼感の合計を縦軸にプロット(配置)します。

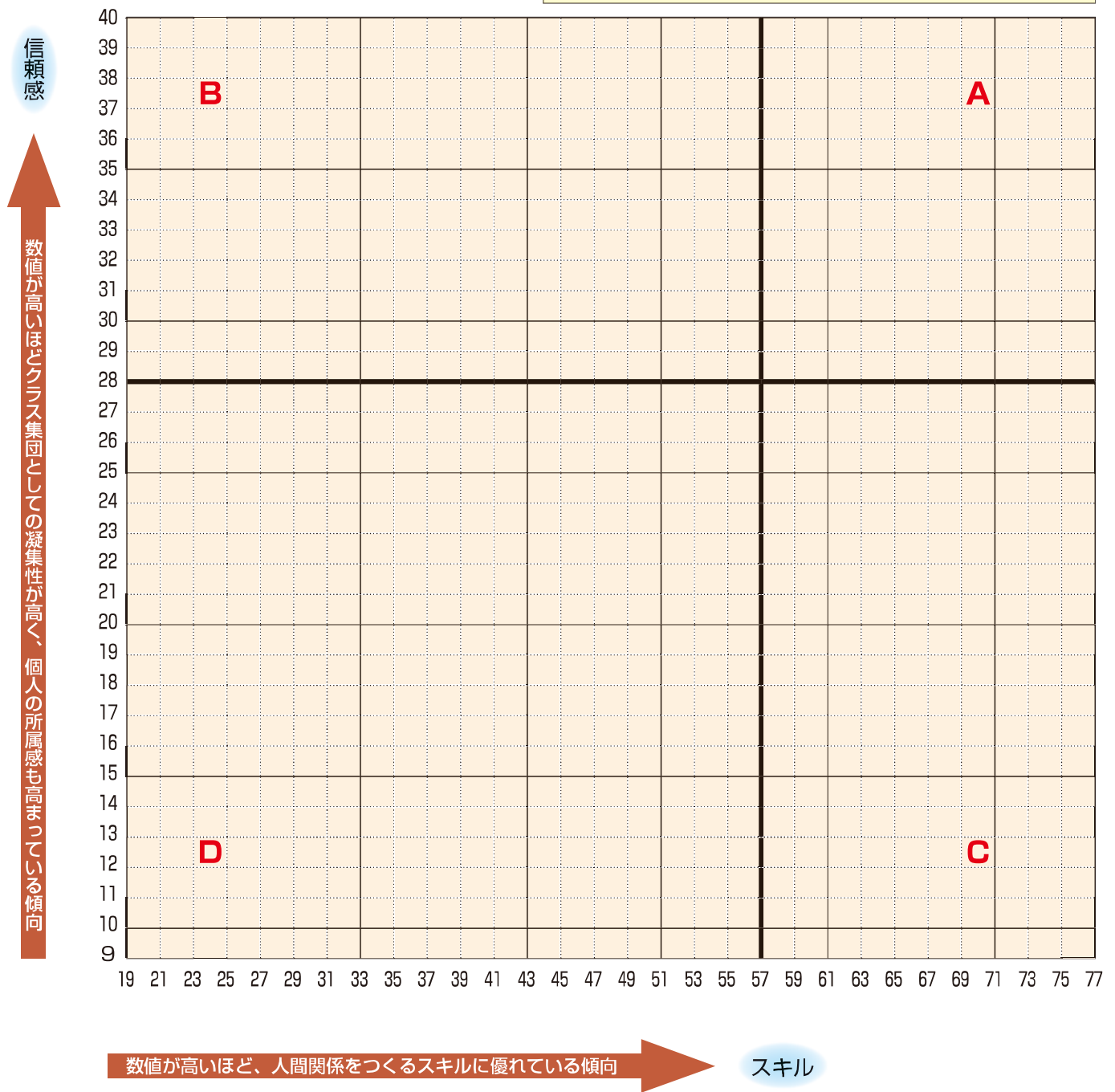
次のページのスキルと信頼感のバランスのグラフを完成し、個人がA-Dのどの位置に所属しているか分析します。

〈プロット〉

カテゴリ

A→満足・自己実現群	B→自己中心・トラブル傾向群
C→対人過敏・不安傾向群	D→退行傾向・要支援群

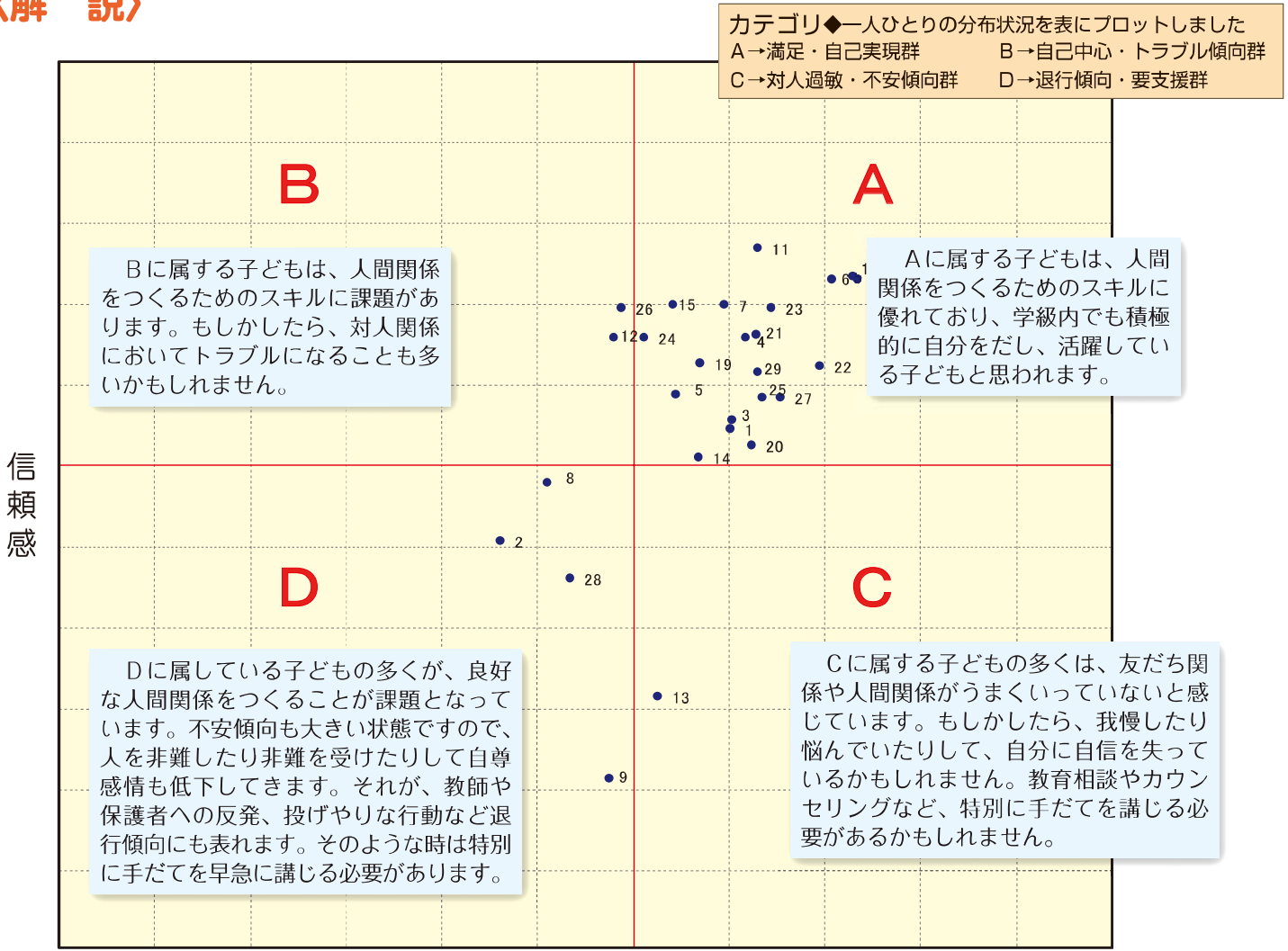
スキルと信頼感のバランス



★縦軸28、横軸57は川崎市の小・中・高等学校、(延べ2万人)で実施した平均値です。

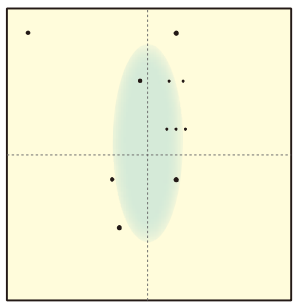
- 学級集団に関して**
 「スキルと信頼感のバランス」で、Dのカテゴリーに多くの子どもがいる場合、個々の子どもと教師の信頼づくりが大切です。学習場面や係活動等を通して、一人ひとりを認め、褒める場面を、できるかぎりつくることが大切です。
- 個人への指導に関して**
 「スキルと信頼感のバランス」で、A～Dの各カテゴリーに属する子どもの集団での位置を示しています。CやDの下位に属する子どもに対しては、教育相談、カウンセリングの実施、家庭や専門機関と連携するなどして、個別の支援・援助を検討することも大切です。
- 留意点**
 「かわさき共生*共育プログラム」や「いじめ防止アクティビティ」などを実施した直後は、スキルと信頼感の数値は上昇しますが、上昇したスキルや信頼感を維持するためには、日常の授業や生活の場面で、くり返し友だちとの接し方等を指導していくことが大切です。

〈解説〉



集団の崩れ方の例

○縦伸びしたクラスの崩れ方の例

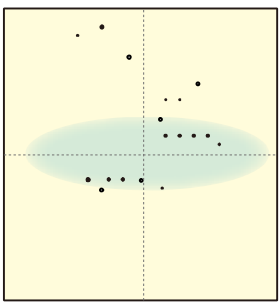


・教職員に指導力があり、影響力も強い反面、集団の中に認められている子、そうでない子が固定化する傾向にあります。認められない子たちの不満が大きくなると、ひねくれたり反抗的な子も出現したりします。

例えば…

- 非難や冷やかし、陰口や悪口が多くなったり、物が隠されたり、また、特定の子に仕事を押しつけ、さぼるなどの退行傾向が見られることがあります。

○横伸びしたクラスの崩れ方の例



・教職員と子どもの関係がフレンドリーで、自由、活発な雰囲気を感じる反面、ルールに甘く、クラスとしてのまとまりがなくなる傾向もあります。教師のリーダーシップが低下すると集団を仕切るタイプの子が生まれたりします。

- 小グループ化して行動することがあります。グループ間の対立や、仲の良いグループ内でも仲間外れやいじわるをすることもあります。また、対象が日替わりでかわることもあります。

プロットの現れ方はそのときの状況にもよります。C、Dの下方に位置する子どもだけでなく、プロットの位置が予想外の子どもがいたら、注意して観察してください。人間関係を把握するには、子ども同士のつながりを線で結びつけていくとその子どもとの関係、問題の背景などが見えてきます。